

東京五輪パラリンピック、芸術で盛り上げよう

障害者ら 23 団体が連携

2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、障害者の文化芸術活動を後押ししようと動き出している。7 月には国内の障害関係 23 団体がネットワークを結成。10 月 20 日に会見を開き、今後、共通のロゴを使用した情報発信をすることなどを明らかにした。各団体が連携しながら、障害者による文化活動の裾野を広げたい考えだ。

オリンピック憲章に「スポーツを文化と教育と融合させること」と明記されていることから、これまで五輪でさまざまな文化イベントが行われてきた。1964 年の東京大会では、国宝の美術展などを開催。以前は芸術の展示がメインだった。

ところが 1990 年代以降、演劇やダンス、ファッションなどさまざまな文化イベントが実施されるようになった。ロンドン大会では、大規模な国際芸術祭が同時開催され、関連イベントは 18 万件にも上ったという。

2020 年の東京大会に向け、政府は日本の文化を世界に発信する大きなチャンスだと意気込む。「史上最大規模の文化プログラム」を掲げ、福祉や教育、ものづくりなどの分野とも連携しながら、2020 年までに 20 万件のイベントを開催することを目標に掲げている。

7 月に発足した「2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者の文化芸術活動を推進するネットワーク」は、そうした東京大会に伴う文化イベントの障害者分野で中心的な役割を果たすとみられる。現在は 23 団体が加盟しているが、今後増える可能性もあるという。会長には久保厚子・全国手をつなぐ育成会連合会会長が就任した。

同ネットワークは、障害者が参加する文化イベントとして、① 絵画や陶芸などの展覧会、② ダンスや

音楽などのステージパフォーマンス、③ 障害者の文化芸術活動をテーマとした講演会の開催、④ 映画上映会などを挙げる。ウェブサイトも作り、こうした全国各地で開催されるイベント情報をまとめるという。

また、ロゴを作成し、各団体が情報発信する際などに活用。このほか、政府が 2016 年秋に文化プログラムのキックオフとして主催する「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」にも参加したい考えだ。

10 月 20 日には、構成団体の幹部が厚生労働省で会見を開催。久保会長は「障害のある人たちによる芸術の見方はきちんとなされていない。なかには光輝く作品もいっぱいあるので、東京大会をきっかけに、障害のある人の才能を皆に知っていただければ」と語った。

構成団体からは「障害の種別に関係なく 23 団体も集まるのは歴史的な出来事。ぜひ一緒に進めたい」（大原祐介・全国地域生活支援ネットワーク代表理事）との声も出た。

◇他の参加団体▷日本身体障害者団体連合会▷全国脊髄損傷者連合会▷日本盲人会連合▷全日本ろうあ連盟▷全国肢体不自由児者父母の会連合会▷全国重症心身障害児（者）を守る会▷日本知的障害者福祉協会▷全国精神保健福祉会連合会▷日本精神科看護協会▷日本自閉症協会▷日本発達障害ネットワーク▷全国社会就労センター協議会▷DPI 日本会議▷全国社会福祉法人経営者協議会▷全国身体障害者施設協議会▷日本相談支援専門員協会▷日本精神保健福祉事業連合▷全国児童発達支援協議会▷全国知的障害児者生活サポート協会▷日本ダウン症協会▷バリアフリー映画研究会

（福祉新聞・第 2737 号 2015 年 11 月 2 日）